



立教中高同窓会

会報 No.18
2024年5月発行



ご挨拶と総会へのお誘い

立教学院 院長 西原廉太



本年、立教学院は150周年を迎えました。この150年の歴史の上に築かれた立教学院一貫教育を、今後もさらに発展させていきますが、その中でも立教新座・池袋中高の存在はきわめて大切です。

1996年、立教学院院長を兼務されていた塚田理総長は、「建学の精神」に立ち帰った時に、「一貫教育」とは、「小学校から大学まで全員がエスカレーターに乗って無事大学を卒業できること」ではなく、立教学院が目指す一貫教育はむしろ、「キリスト教に基づく人格教育を、それぞれの学校において全力を尽くすこと」であり、「人間的価値、意味、目的にかかわる問題と直面しないのであれば、キリスト教学校としての存在理由はない」と明言されています。

このような問題意識の中で、1998年に、答申「立教学院一貫連携教育の目標と構想」（寺崎昌男先生座長）が公表され、これまでの「一貫教育」という言葉に代えて、「一貫連携教育」という名称が提示されました。そして、昨年、ついに「立教学院一貫連携教育推進室」新設の実現へと結実いたしました。今後は、池袋・新座両校の生徒、進学者が、立教学院全体にとっての中核的存在、文字どおりの「アンバサダー」となるように尽力してまいります。

立教中学校・高等学校同窓会の益々のご発展を祈念しますと共に、引き続きのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

音楽を通した人間教育を目指す 立教池袋中学校高等学校吹奏楽部

未経験からの入部者が多いながらもコンクールでは金賞受賞の常連校となった立教池袋中学校高等学校吹奏楽部。生徒の特性にあった楽器選びから演奏曲の選定など日頃の部活動をどう過ごしているかを顧問の西澤先生と部長の鳩岡さん(高校2年)に聞いてみました。(学年は取材時)

吹奏楽部の活動内容について、まずは簡単に教えてくださいませんか？

鳩岡：主に月～火・木～土曜日が練習日で普段いろいろな個人で練習をしたりだとかパートごとに練習をしたりしています。夏場はコンクールに向けて秋は文化祭や学外の演奏会、合間にワークショップを開催してもらったり、冬は3月に開催される定期演奏会に向けて練習を重ねています。高校生は19時まで、中学生は17時50分までの練習時間です。

今回った範囲でもその発表される場の頻度って結構たくさんありますね。

西澤先生：高音の楽器が合う人と中低音の楽器が合う人がいたりするので、一番最初にいろいろな楽器を試させています。トランペットが吹きたい生徒も金管楽器を吹かせてみて自分に最も合う楽器を担当してもらうようにしています。フィットしない楽器を続けていてもなかなか上達せずお互いが不幸になってしまうので適性を見ながら担当を決めています。あと吹奏楽は同じ生徒がずっと同じ楽器をやることが多いのですが12月にジャズライブをやっていてフルートやクラリネットをやっている生徒はサクソ、ホルン吹いている生徒はトランペット、チューバはウッドベースなど自由にいろいろな音楽を演奏できるように工夫しています。あくまでも吹奏楽は音楽への入口で彼らにいろいろなジャンルの音楽を演奏させている。生徒の9割は大学に入っても音楽を続けてジャズをやりたい生徒はサークルに入ったり、ビッグバンドやったり、クラシックをやったりしています。本当に自分の好きな音楽を探させてそれに見合った環境や譜面を提供するのが私の役目です。インターネットの無い時代は日本ではアレンジのいい楽譜にあまり出会うことができず直接アメリカから取り寄せたこともありました。

私が在学していたころはまだ中高一貫ではなく、吹奏楽部もなかったのですが男子校で吹奏楽部がある学校は珍しいのではないですか？



西澤先生：私の着任した当時はリコーダーアンサンブルで5人しかいない「音楽部」でした。予算もない時代だったので中古の安い楽器を一生懸命探し少しずつ増やながら、着実にコンクールなどで実績を重ねて「吹奏楽部」に名前が変わるまで10年かかりました。



新型コロナも2023年5月から5類に移行しましたが、コロナ禍で大変なことはありましたか？

西澤先生：実技評価が最も難しかったです。

吹奏楽部は遠隔で練習とかしていたのですか？

西澤先生：いいえできませんでした。慣れないZOOMの使い方や部員とのコミュニケーションをとるのが精一杯でした。60人が同時に接続するとやはり回線が不安定になったりして突然切れたりして大変でした。

話は変わりますが、楽器未経験者でも吹奏楽部に入部してくる生徒はいますか？

西澤先生：うちはほとんどが未経験者から始まります。変な癖もなくその方が伸びる傾向があるようです。ドラムやトランペットといった目立つ楽器が人気あつたりしますが吹かせてみると全然音が出ない。いざクラリネットを吹かせてみるといきなり音を出せる生徒もいたりします。

演奏会等で演奏する楽曲の選定はどなたが？

西澤先生：基本的には私が決めています。ただ生徒からのリクエストも多いので「なんでこの曲を選んだのか？」という理由を明確にさせています。最近だとクラシック以外にマイケルジャクソンなども演奏しました。難しい曲であってもそれぞれ個人で一生懸命練習して、たった3日で文化祭で演奏するレベルまで仕上げたのは驚きました。2022年は学校のある豊島区が区政施行90周年ということで記念行事の一環で世界的なジャズ作曲家の仲間美帆*さんを招聘してワークショップを開催。その会場に立教池袋が選ばれて生徒たちには大変貴重な経験を与えることができたと思って



います。相手は世界的な奏者ですが当校の生徒たちのレベルの高さに驚きスタンディングオベーションで賞賛してくれたことが記憶に残っています。

高校を卒業して音楽の道に進もうとする生徒も中にはいますか？

西澤先生：今まで数名はいましたが、音楽の業界は大変なので今は大学に進学することを進めています。そのうえでどうしても音楽の道に進みたかったら卒業してからもう一回音大に入ることを勧めています。

部長として最も嬉しかった瞬間、楽しかった瞬間は何ですか？

鳩岡：みんなと本番の舞台でいままで自分たちが積み上げてきた練習の成果を発揮して最高の演奏ができた瞬間が最もやってよかったと感じた瞬間でした。一方、吹奏楽は個人競技ではなく大きな団体競技なので皆の方向性を揃えたり中学一年生から高校三年生までの音楽の技術的にも年齢の差による精神的な差をまとめてあげるのが大変でした。

その場合はどう工夫して乗り切っていますか？

鳩岡：なんで音楽をやっているのか？というのを各自自問自答してもらい意識の統一を図るようにしています。またいろいろなところで下級生に「調子はどう？」と声をかけて各自のコンディションを把握するようにしています。

今後、吹奏楽部がどうなっていったらうれしいですか？

鳩岡：ポップス・ジャズなど他校に比べ高いレベルの演奏ができているのは自覚しているのでその分野を伸ばしつつ自分の個人レベルも上達させ部活動としてこれまで以上に高いレベルになってくれたら嬉しいです。

西澤先生：私がかつと吹奏楽部を作ったモットーは「音楽を通した人間教育」ということをずっとやってきたので、そのうえで上達することも大事だけれども「一番大事なことを大切にしよう」と生徒たちには投げかけています。問題が起きた場合、たとえ合奏練習の日であっても予定を変更して生徒と向き合って問題を解決するようにしています。上級生は幹部として他の生徒の見本であってほしいし実際、歴代幹部を経験した生徒たちは立派な大人になっていてくれています。生徒たちには本物に触れる機会を増

やして行ってほしい。将来彼らがどんな職業になったとしても人生の中で自分の可能性を殻に閉じ込めないでどんどんチャレンジしてほしいと考えています。

我々同窓生が演奏を聴くチャンスはありますか？

西澤先生：毎年3月に東京芸術劇場で定期演奏会を開催しています。2024年3月は例年通り東京芸術劇場での開催なのですが、2025年3月は大規模修繕工事のため芸術劇場が使えません。私が引退する最後の定期演奏会は初台のオペラシティホールで開催できることになったので今から楽しみです。ぜひ同窓生の皆さんお越しいただければと思います。

ありがとうございます。では3月の定期演奏会ぜひ聴きたいと思います。本日はお忙しいところありがとうございました。

西澤先生&鳩岡：ありがとうございました。

※2019年に日本人として初めてワークショップを世界的著名なジャズトランペット奏者ウイント・マルサリスに受け、氏に実力を認められ吹奏楽部は2020年5月に行われるデューク・エリントンプログラムに招聘された。



リーダーシップ教育で躍進する 立教新座高等学校ソフトテニス部

ソフトテニスの競技人口が日本一という埼玉県。その激戦区で2022年、2023年と2年連続でインターハイ、国体の出場権を勝ち取った立教新座高等学校ソフトテニス部。その躍進の秘訣はリーダーシップ教育にあるという。まさに立教のリーダーシップ教育を体現することで、強いチームを作り上げたソフトテニス部に、今日までの道のりを顧問の櫻井先生と国体出場の野口さん(高校3年)、酒井さん(高校2年)に聞いてみました。(学年は取材時)

櫻井智弥先生 (顧問)
野口真之介 (高校3年生)
酒井泰輝 (高校2年生)

このところソフトテニス部がとても活躍されていますが、以前から強かったのですか？

櫻井先生：以前はそれほど強くなかったです。県大会や全国大会で勝てるようになったのは最近のことです。国体に2人が出場するのは立教初の偉業です。10年ほど前に推薦制度が出来てから徐々に強くなっていきました。今回、国体に出場した野口君、酒井君も中学時代から活躍していた選手で推薦制度で入ってきてくれました。



櫻井先生

先生が顧問になった時、どのような方針でクラブを運営していると考えましたか？

櫻井先生：2011年に顧問に就任しました。最初は強くなるために練習をして厳しくやっていこうと試みましたが、生徒達は全く方針が合わずぶつかることが多くありました。生徒も自分も楽しくない。色々悩み考える中、そもそも彼らが入部した目的は「勝ちたいから」ではなく「テニスをしたいから」ということに気付いたのです。それからは、自分の目線を落とし、まずは「楽しいよね」から始めることにしました。それからだんだんと楽しくなってきて、「勝ちたいよね」とか、強い生徒が入ってきて「そこに徐々にレベルを合わせたいよね」という雰囲気になっていきました。

ソフトテニスの楽しみを共有することから始めよう、という方針に変わったのですか？

櫻井先生：その通りです。厳しいと来てくれないので、毎日来なきゃいけない、というにはしていません。「自分が練習したいから来る」という自発的な行動を促しています。今は、いやいや来る生徒はいないと思います。来たくなければ休んでも構わないし、怒ることもない。遅れて来ても来るだけ偉いと思っています。遅れてでも来たいと思える活動であるからなので、それに対してよく来たねと言うようにしています。厳しくしていて上手いかなかったという経験もありますが、今の方針に合う生徒が近年増えてきていると感じています。厳しい中ではやりたくないけど、活動としては継続してやっていきたい。「楽しい環境づくり」に注力して、「来たいと思える場所」「いつでも来られる場所」といった環境と場所を作ってあげたいと思っています。

楽しい部活といった環境の中でも、強い選手が育つのはどうしてですか？

櫻井先生：今の生徒達は、やりたいことがとても多いです。勉強もしたいし、遊びにも行きたい。そんな中でテニスをしたいという気持ちになって、自ら練習場に来られるという環境があるのは自発的で良いと思います。とはいえ練習時間が多くとれない環境です。反面、コートの外で考える時間が出来たと思います。次の練習で何をやりたいか、どうしていいかという考える時間が大事なのです。昔のように365日やっていたころは1~2日やらないだけで調子が狂うという感覚があったと思います。そうすると調子の良い悪いで、調子が悪いから負けた、となってしまう。調子が良い悪いで大会に臨まないようになったのが強い所だと思います。そして今の生徒達は、技術を言語化したり、自分を客観的に考えたり、先生とも話をする時間が増えました。それを繰り返しているうちに、練習量が少なかったとしても大会当日に力を発揮できるようになってきました。やる時間に集中しようということになっていると思います。

目的を持った練習がしっかり出来ているということでしょうか？

櫻井先生：練習量が私の思っているものよりも少ないので、限られた時間に自分のやりたいことを凝縮しているのでしょう。何となく練習するという時間を彼らとしては作らないようにしているのではないかと思います。

昔は、身体に覚えこませることが主流だったように思いますが？

櫻井先生：それとても大事なのですが、そういったことは小学校や中学校でやってきていて身体に染みついています。身体に覚えこませることは別に試合の駆け引きなどは頭のなかで考え、新たな発想や戦略を取り入れるなど自分自身で考え熟成する期間が必要でそれが大事なのです。立教の生徒は自分で考えて、動いて、やりたいことに突き進む力を持っています。まさに立教の目指す『自主性を重んじる』を体現しながら好成績を出せている良い事例となっています。

高校から初心者で入部する生徒もいるのですか？

櫻井先生：高校からスポーツ自体を始める生徒も多く、3分の2位の生徒が高校からソフトテニスを始めています。毎年、様々な部活経験者がソフトテニスを始めたいと入部してきます。厳しくなく楽しいという点と、それでいて全国大会出場という実績が出てきているからだだと思います。最近では別の中学校からの問い合わせも増えています。

指導方法はどのようにしているのですか？

櫻井先生：技術指導も最初は必要なのですが、生徒が生徒に教えるようにさせています。立教の生徒はコミュニケーション能力がとても高く、教え合うのがとても上手です。練習メニューも自分達で決めています。私に訊いてくれば答えるようにしていますが、基本は自分達でやりたいことをさせています。



生徒の主体性が育まれて、それが上手く発揮されているように見えますが？

櫻井先生：立教ではリーダーシップ教育等も行っているのですが、自分で動く、他者を支援するといったことを大事にして欲しいと思っています。自分がやりたいからやるし、やりたい人に対しては協力できるような生徒になって欲しいと伝えています。

ソフトテニスの魅力や、楽しいところは何ですか？

野口：硬式と違った、ボールの回転を生かしたプレーが出来るのが面白いです。また、ダブルスでのチームプレーや駆け引きが面白いです。

シングルとダブルス、どちらが楽しいですか？

野口：もちろんダブルスのほうが楽しいです。ダブルスがソフトテニスの神髄とも言えるのではないのでしょうか。

ダブルスの時の作戦は、パートナーと一緒に考えるのですか？

野口：ポジションや戦い方、相手によって戦い方を一緒に考えています。サインプレーでサーブの受け方、拾い方を決めています。

立教新座ソフトテニス部の一番良いところを教えてください。

野口・酒井：和気あいあい、みんなで楽しく活動するという点です。練習メニューや目標は、自分達で決めるのですか？

野口：目標は、実力差もあるので個人個人で目標を設定しますが練習は自分達で話し合っただけで決めます。

部活のメンバーは、仲間でもありライバルでもありますが、その距離感はどうにとらえていますか？

野口：ライバル心があるというより、共に高め合える仲間と思っています。

入部して良かったと思うところは、何ですか？

野口：良くも悪くも自主性が問われていますので、一生懸命やる人はどんどん伸びますし、やる気のない人はあまり伸びないまま部活を終えることもあります。厳しい面と楽しい面の2つがあると思います。

酒井：中学では強豪校に通っていて、練習も強制され、きついトレーニングをするなど色々ありましたが、今はそういったものがなく自由にやれるところがとても良くて楽しいです。

スパルタ世代には、とても不思議に思うのですが、このような自由な環境の中でどうやって強くなるのが出来たのですか？

野口：中学時代に厳しい環境でやってきた経験があったので、それを自分の中に取り入れつつ、この自由で自主的な環境に適応できたということだと思います。それには中学時代の顧問の先生の影響も大きかったです。

中学時代と高校時代、どっちが伸びたと思いますか？

野口：ポジションが違うので一概には言えませんが、中学時代と比べると実績としては高校の方が伸びています。ですので、こういう練習環境は決して間違いではないと考えています。

酒井：中学のほうが伸びていたとは思いますが、楽しくはありませんでした。やはり楽しいほうが良いです。

今後の目標は？

野口：大学に入ってソフトテニス部に入るかどうかは決めていませんが、勝つとか試合とかではなく今後も何らかの形でずっとソフトテニスに関わっていきたいと思っています。

酒井：まだ現役なので、インターハイに出場してベスト8以上を狙っています！



酒井さん



礼拝

福澤（古木）道夫チャプレン 逝去 10 年記念礼拝

日時：2024 年 10 月 19 日（土）14：00～15：00

場所：立教学院聖パウロ礼拝堂（新座チャペル）

司式：大畑喜道主教

1966 年立教中学校入学、1972 年立教高校卒業の私たちの期は、高校時代に福澤（古木）チャプレンにたいへんお世話になりました。気がつけばそのチャプレンが亡くなって今年で 10 年です。そこで私たちの学年では、ご遺族にご相談のうえ、先生の逝去 10 年を覚えての記念礼拝を行うことにいたしました。出席は、期や学校にかかわらずどなたでも自由です。参加希望の方は、上記の日時に直接新座チャペルにおいでください。出席については特に連絡、申込みの必要はありません。

66-72 同期会幹事会



バスケット

バスケットボール部 OB 会

令和 5 年 7 月 8 日（土）新たに『立教中学高校バスケットボール部 OB 会』が設立されました。新 OB 会は、70 年の歴史ある立教新座高校・同志社岩倉高校定期戦、40 年超の SPBF（小学校から大学まで揃ってのバスケットボールフェスティバル）、中学・高校バスケットボール部支援、OB 会員親睦目的で活動してまいります。令和 1 年 9 月 2 日の初回打合せからコロナの影響もあり約 4 年弱、49 名の方々にご承認いただきスタートすることとなりました。合言葉は『あ（明るく）・な（仲良く）・た（楽しく）の中高バスケ OB 会』として運営していきたいと思っております。OB 会のホームページも開設され様々な情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。中高同窓会の皆様でバスケットボール部に在籍されていた方々は、どうぞご入会をお願いいたします。



次回立教中学高校バスケットボール部 OB 会ご案内

- 開催日時：令和 6 年 6 月 15 日（土）17 時 30 分開会予定
※会則において、総会は毎年 6 月第 3 土曜日と規定し承認されました。
- 開催場所：『地球飯店』豊島区西池袋 1-22-8
TEL 03-3985-0684

HP アドレス <https://rikkyo-basketball-ob.com/>

連絡先

幹事長 後上 彰（昭和 47 年池袋中学・昭和 50 年新座高校卒）

メール akryk_0728@nifty.com

携帯電話 090-2152-5593

立教中学高校バスケットボール部 OB 会

会長 堀居 英治（昭和 43 年池袋中学・昭和 46 年新座高校卒）

古希

寄宿寮（東寮 12 回生）古希記念同期会

令和 5 年 7 月 9 日・10 日、我々「12 回生同期の古希の会」を同期の勝俣君が社長の「湯本富士屋ホテル」にて、当時お世話になった森田・西村・渋谷先生方をお招きして開催することになった。「物故者（4 名）を除き、同期 34 名の内 19 名が参加した。卒業以来 50 年振りの参加者も多数いて、改めて時の流れのスピードを認識して再開を喜んだ。初日は先生方を囲んでのランチ会から始まり、フロント前の特注受付にて、出席有無の確認後（寮式には点呼）に各自割り振られた部屋などでフリータイムを過ごした。17 時から本番である懇親会が開始となり、まずは森田先生先導の元、物故者へのお祈りなどを捧げ第 1 部は終了。続いて第 2 部が始まり、定番の先生方からのご挨拶（ここまでは会場静寂）を頂き、その後勝俣社長指名の「箱根芸者 4 名」が登場すると、「オー」と静寂から驚愕へと一転した。その後、遠方（伊勢）の花井君の乾杯で、4 次会までの 50 年分の長い宴会が始まった。大広間での締めは、平野リーダー長の「第 1 応援歌」隅谷団長「学院歌」の定番。翌日は所用の早朝出立者を除いた朝食後に、次回は森田先生の米寿会を合言葉に、それぞれ家路についた。



高橋 歩・平野 透

立教池袋 2023 年度退職者・就任者・逝去者

退職者 豊田 由貴夫（校長）、シュタルル・マーク（チャプレン）、
増田 毅（体育科）、小澤 哲也（英語科）、
石田 麻保（国語科）、杉原 望（英語科）

就任者 小笠原 史人（事務室）

逝去者 中島 博（元校長）

立教新座 2023 年度退職者・就任者・逝去者

退職者 吉川 明憲（数学科、副校長）、吉沢 東（保健体育科）
柿沼 直文（芸術科 美術担当）

就任者 楢原 和真（英語科）

逝去者 有川 寛（元理科）